

- # 報告1 個別避難行動計画作成ワークショップ報告

ご家族単位で、あるいは支援者と当事者がペアになって、家から通所先の間にある危険な場所の確認や、災害が起きたときにどこを頼るか、どこへ行くかなどを話し合い、イラストも交えながらラフなイメージをまとめていきました。中には、なかなか災害時のイメージが出来ず苦戦するチームもありましたが、あるご家族は「東京駅から自宅まで、一度一緒に歩いてみて、大体この方向に歩けば帰れるということを確認してみることにしました」など、一定の成果も報告されました。



【第2部ワークショップの様子】

●感想

終了後に参加者から感想が寄せられました。「家族で日頃からの準備、訓練をもう一度話し合いたいと思います。」「地震の映像、怖かったです。」「どうしても子どもを守るという考えになってしまいがちですが、みんなで助かるという考え方に新たなる気づきがありました。」「お話を伺って通勤途上の各駅を、実際に下車してみようと思いました。」「・・・ほかにも沢山の声が寄せられましたが、そのどれもが「大いに学びになった」「個人レベル、家族レベルでの対策をしっかり考えていきたい」というものでした。私は、やはり障がいのある人がひとりでいるときに被災した場合、いかに素早く自助から共助、その先の公助につなげていかれるかがポイントであると思いました。

●株式会社KOKUA 足田裕二氏より

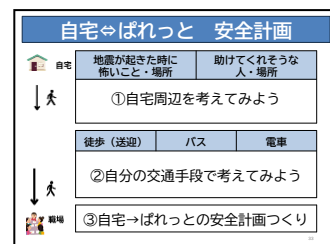
振り返れば、ぱれっとさんから初めて防災のご相談をいただいたのは2023年の夏でした。相馬さん、南山さんの「通勤中に災害が発生したらどうしよう」という問題意識のもと、利用者や入居者の皆さんが「無事に過ごせる方法を考えたい」という強い想いに私の心も動かされ、今回お手伝いをさせていただく

ことになりました。災害がいつでもどこで発生するかは誰にもわかりません。お正月でゆっくりしている時かもしれませんし、家族が外出している最中かもしれません。朝の通勤ラッシュで電車に乗っているときかもしれません。だからこそ、役に立つのは事前の準備です。

「ここで被災したら〇〇に助けを求める」「〇〇は危険なので直ちに離れる」「ここまで来られたら〇〇に集合する」といった具体的な行動指針を考えておくことが、いざというときに命を守る行動に繋げることができます。今回一緒にさせていただき、ありがとうございました。

●防災コミュニティ協会 湯井恵美子氏より

障がいがあってもなくても、災害は等しくやってきます。ぱれっとの皆さんにはたくさんの仲間がいますが、これは大きなメリットです。誰かにお願ひされたら、多くの人は助けたいと思うそうです。ならば、一人で、あるいは家族だけで乗り切ろうとせず、むしろ、余裕をもって「助けて!」と伝えられるように練習しておくことが大切です。まずは、自分の自宅のハザードを知ることから始めましょう。自宅周辺の洪水や土砂災害のハザードマップを確認し、浸水想定がある場合は、自分の住むエリアに警戒レベル3が知らされたら、ハザードマップに色のついていない、快適に生活できる場所に移動します。水が集まりやすい土地は地震の揺れにも弱い傾向があります。地震や津波はいつ起こるかわかりません。あらかじめ、自宅周辺の危ない場所、助けてくれそうな場所や人を調べてまとめておき、それをぱれっとの仲間と共有しておきましょう。



今回の企画にあたり、助成金をいただきました
西武信用金庫様に心より御礼申し上げます。

(事務局長 南山達郎)

報告2 シブヤフォント高島屋出店&冊子リリース！

4月16日（水）～22日（火）の1週間、新宿高島屋にて「みんなのスタイル～シブヤフォント POP UP SHOP～」が開かれました。昨年9月に続き2回目の出店となりましたが、今回初めて工房ぱれっとのメンバーが会場で、「らぶらび」や「アートショッパー」（1枚1枚手描きの絵を描いた紙袋）作りの実演を行ないました。「細かい作業ですね」「作



者に会いたいから（休憩から戻るのを）待ってます」等お客様の反応をいただき、自分の作ったものが目の前で売れると桶谷樹里さんも福富かれんさんもニッコリと笑顔でした。原宿の「シブヤフォントラボ」で昨年度実演を重ねた経験が生き、場所が変わってもリラックスして制作できたことは、私達の自信につながりました。

また、4月29日（火・祝）には、これまでシブヤフォントやご当地フォント（※）に関わった4500人以上のエピソードをまとめた冊子『ショウガイはへんしんできる』の発行記念イベントが開催され、おかし屋ぱれっとの田代和裕さんとお母様、㈱トラストワーク代表でありぱれっとの理事でもある蔭山幸司さん、玉井が登壇しました。シブヤフォントによりどのような内面的な変化が起こり、それが実際のアクションにつながって行ったのか、四者の視点からお話ししました。福祉の関係人口に関する調査の一環で日本財団の助成により完成したこの冊子は右のQRコードから無料で読むことができます。（工房ぱれっと 玉井七恵）

（※）シブヤフォントの手法を日本各地で実践し、現在22ヶ所でフォントやパターンが生まれている



報告3 ハートバレーしゅや学習会 「超短時間雇用の実践について」登壇

3月18日（火）渋谷区立勤労福祉会館2階で超短時間雇用の実践について学習会がありました。ぱれっとからは渋谷区役所1階の「ハチ公そば」でそば打ちの仕事をしている田代和裕さんと職員の井上ムハンマドが登壇しました。超短時間雇用とは、業務内容や業務範囲を明確に決めることで雇用契約で働ける人を増やそうとする取り組みで、一日30分、週1回から働いている人も居り、勤務時間に何時間以上などの制限がないのが特徴です。また、就労継続支援B型などの福祉サービスと同日に併用出来るという点も特色です。そして同じくハチ公そばで働くワークささはたのメンバーの佐藤さんと職員の菱木さんと一緒に、これから超短時間雇用を始めてみようかな？そもそも超短時間雇用ってどういうものなの？と思っている企業の方や福祉事業所の方に、採用までの流れや働き始めた後の動き、超短時間雇用を始めてみて変わったこと等を話しました。

最後には質問コーナーもあり「どんなことに給料を使っていますか」という質問に、田代さんは「絵を描くのが好きなので、紙や画材を買っています」と嬉しそうに答えていました。

（おかし屋ぱれっと 井上ムハンマド）